

政策Ⅲ：環境・にぎわい

重点施策3・施策4

政策	Ⅲ 環境にやさしく、夢・うらおい・にぎわいのある親しまれる港づくり		
重点施策	3 にぎわい創出に向けた再開発の推進	施策推進責任者	企画調整室長・総務部長・港営部長・建設部長
施策	4 うらおいと魅力のある港湾空間の形成		

1. PLAN(目的・展開内容)

*シート中、「感染症」とあるのは、すべて「新型コロナウイルス感染症」を指す。

目的	サービスの対象者(誰のために)	地域住民、来訪者、就業者、船会社、港湾運送事業者、荷主など名古屋港に集うあらゆる人びと	意図(どういった状態にしたいのか)	ガーデンふ頭イベント開催等により港湾空間の更なるにぎわいや魅力を創出するとともに、名古屋港水族館などのにぎわい施設を活用し、ときめきとやすらぎを感じ、親しまれ、みんなの夢がふくらむ港
	サービスの対象物(何を)	親しまれる施設(集客施設・運河など)やイベントなど 港湾のあらゆる機能への環境配慮や自然環境保全の取組		
展開	<p>(重点施策3) ガーデンふ頭では、「多くの人々を呼び込むにぎわいの創出」、「人々が長くふ頭に滞在できるくつろぎの場の提供」を基本方針として、民間事業者の資金とノウハウをいかした取組を進める。また、中川運河にぎわいゾーンの魅力向上に向けて、覆砂による底層環境の改善や水循環による水質改善などに取り組み、人々が水辺に親しむ機会の創出に努める。</p> <p>(施策4) ふれあい交流拠点であるガーデンふ頭において、海の日名古屋みなと祭や船舶の一般公開等、年間を通じて様々なイベントを開催・支援するとともに、SNS等によるタイムリーな情報発信により、名古屋港の魅力向上・拡散の取組を進める。また、ガーデンふ頭の名古屋港水族館や、新舞子マリンパーク、富浜緑地の運動施設等の観光・にぎわい施設を最大限に活用し、港のにぎわいを継続的に創出する。 中川運河において、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導や、水循環による水質の改善など、運河再生に取り組むとともに、歴史資産、観光拠点をめぐる海上交通ネットワークの形成を進め、都心部のにぎわいを港に誘導する。 港のにぎわい創出や観光振興、地域経済の活性化等を目的として設立された「名古屋港外航クルーズ船誘致促進会議」を通じ、クルーズ船社等へのセールスやクルーズ船寄港時の歓迎行事・観光案内を行う等、クルーズ船寄港増加に向けた取組を進める。 クルーズ船の受入れについては、旅客の利便性や安全性の確保を最優先に考え、より一層受入れ環境の充実・改善に取り組む。</p>			

2. Do(施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

(1) 重点施策3

コード	事務事業名(担当課名)	成果目標名(指標型)	元年度			2年度			3年度			3年度状況	4年度以降の方向性		3年度実施事業に基づく評価結果 ・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等
			上段:成果目標 目標値	中段:成果目標 実績値	下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)	上段:成果目標 目標値	中段:成果目標 実績値	下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)	上段:成果目標 目標値	中段:成果目標 実績値	下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)		成果	コスト	
重施03事01	ガーデンふ頭再開発の推進(総合開発課)	ガーデンふ頭再開発の進捗状況(全3工程)【進管理型】	1工程	1工程	2工程	3工程	遅れ	継続	維持	維持	3年度の状況は「遅れ」となったが、感染症の影響による生活様式などが変化している中でも再開発を着実に進めているよう民間事業者と調整を図っていると、事業化の見通しを探っていくことから、今後の成果は「維持」とし、コストも「維持」とする。				
			1工程	1工程	1工程	5年度			取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。						
			54,027千円	44,954千円	138,250千円										
重施03事02	中川運河にぎわいゾーンの魅力向上(金城・中川・南5区担当、環境担当)	中川運河覆砂進捗状況(全4工程)【進管理型】	1工程	2工程	3工程	4工程	順調	継続	維持	維持	中川運河にぎわいゾーンにおいて、良好な水環境の創出や回遊性の向上を図ることにより運河の魅力向上させ、中川運河の再生を推進していく必要があるため。				
			1工程	2工程	3工程	5年度			取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。						
			213,792千円	205,793千円	395,535千円										

(2) 施策4

コード	事務事業名(担当課名)	成果目標名(指標型)	元年度			2年度			3年度			3年度状況	4年度以降の方向性		3年度実施事業に基づく評価結果 ・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等
			上段:成果目標 目標値	中段:成果目標 実績値	下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)	上段:成果目標 目標値	中段:成果目標 実績値	下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)	上段:成果目標 目標値	中段:成果目標 実績値	下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)		成果	コスト	
施04事01	名古屋港のPR(広報・にぎわい振興担当)	Facebook及びInstagramページ投稿へのいいね等の数【単年度管理型】	17,000件	23,000件	24,000件	26,000件	目標値を上回る	継続	維持	縮小	成果は、取組を継続し目標達成を目指すことから「維持」とする。コストは、練習帆船の寄港が1隻となるため「縮小」としたが、名古屋港への関心を高め、理解が深まるよう、引き続き取り組む必要がある。				
			22,900件	21,881件	30,115件	資源(財・人)の投入を減らしながら、取組を継続し、成果を維持する必要がある。									
			145,858千円	114,055千円	129,693千円										
施04事02	名古屋港水族館の振興(水族館事業担当)	入館者数【単年度管理型】	220万人	220万人	225万人	230万人	目標値を下回る	継続	拡大	拡大	海洋文化の普及を図り、イベントの開催や積極的なPRにより、入館者数を回復する必要があるため「拡大」とする。名古屋港水族館事業運営計画策定に伴う委託調査の実施や、3年度に引き続き、指定管理料の支出が必要となるため、コストは「拡大」とする。なお、4年度は入館者数増加を見込むことから、指定管理料支出額は3年度に比べ減少が予想される。				
			200万人	92万人	132万人	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。									
			937,896千円	1,169,793千円	1,090,665千円										
施04事03	金城ふ頭における交流拠点開発の円滑な推進(金城・中川・南5区担当)	港湾関係者等の意見に対応した割合【単年度管理型】	100%	100%	100%	100%	目標値どおり	継続	維持	維持	金城ふ頭は港湾物流の拠点でもあることから、引き続き、物流との共存を図りながら交流拠点開発を推進し、うらおいと魅力のある港湾空間を形成する必要があるため。				
			100%	100%	100%	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。									
			11,926千円	11,926千円	11,700千円										
施04事04	魅力ある港湾景観の形成(環境担当)	カラー計画マニュアルとの整合性率【単年度管理型】	100%	100%	100%	100%	目標値を下回る	継続	維持	維持	引き続き、魅力ある景観づくりに取り組んでいく必要があるため。なお、3年度の状況は「目標値を下回る」となったが、成果については、事業者の協力によることから「維持」とし、コストも「維持」とする。				
			100%	54%	50%	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。									
			3,698千円	13,867千円	6,941千円										
施04事05	名古屋港ポートビルの管理・運営(関連事業担当)	入館者数【単年度管理型】	46万人	46万人	47万人	48万人	目標値を下回る	継続	拡大	拡大	成果は、入館者数を回復する必要があることから「拡大」とする。コストは、3年度に引き続き、指定管理料の支出が必要であるため「拡大」とする。なお、4年度は入館者数増加を見込むことから、指定管理料支出額は3年度に比べ減少が予想される。				
			45万人	15万人	25万人	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。									
			152,789千円	133,489千円	134,362千円										
施04事06	名古屋港湾会館の管理・運営(関連事業担当)	会議室の利用率【単年度管理型】	33%	33%	34%	35%	目標値を下回る	継続	拡大	拡大	成果は、利用率を回復する必要があることから、「拡大」とする。コストは、3年度に引き続き、指定管理料の増額が見込まれるため「拡大」とする。なお、4年度は、感染症の拡大防止を理由とするキャンセルの減少を見込むことから、指定管理料支出額は3年度に比べ減少が予想される。				
			32%	21%	27%	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。									
			69,803千円	75,968千円	65,758千円										
施04事07	臨港緑地の管理・運営(関連事業担当)	利用者数【単年度管理型】	56.2万人	56.8万人	57.5万人	58万人	目標値を上回る	継続	維持	維持	港湾の緑地を整備し運営を行うことは、港湾管理者の責務であり、また、運動施設・緑地等の管理・運営により、港の賑わいと憩いの空間の創出に繋げる必要があるため、「成果」、「コスト」ともに維持とする。				
			52.6万人	57.6万人	62.8万人	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。									
			539,200千円	378,243千円	353,441千円										
施04事08	中川運河緑地(堀止地区)整備事業(事業推進課)	整備面積【進管理型】	0.84ha	0.86ha	1.07ha	1.1ha	4年度完了	順調	維持	維持	人々が港の雰囲気を楽しむことのできる水辺空間を整備し、地域環境の向上を図る必要があるため。				
			0.84ha	0.86ha	1.07ha	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。									
			14,764千円	27,995千円	20,966千円										
施04事09	中川運河水質改善事業(事業推進課)	事業の進捗状況(全7工程)【進管理型】	4工程	4工程	4工程	7工程	5年度完了	順調	維持	維持	中川運河の水循環を促進し、市民等が水辺を不快なく散策できる水環境の創出を図るため。				
			4工程	4工程	4工程	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。									
			14,009千円	99,112千円	100,160千円										
施04事10	海上交通ネットワークの形成(金城・中川・南5区担当)	金城ふ頭小型棧橋整備の進捗状況(全4工程)【進管理型】	2工程	3工程	3工程	4工程	4年度完了	順調	維持	維持	利便性の向上を図りながら海上交通ネットワークの形成を進め、うらおいと魅力のある港湾空間を形成する必要があるため。				
			2工程	3工程	3工程	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。									
			43,209千円	44,133千円	9,900千円										
施04事11	クルーズ船誘致の推進(誘致推進課)	情報発信数【単年度管理型】	10件	30件	33件	40件	目標値を下回る	継続	維持	維持	感染症の影響により外航クルーズ船の運航が再開されなかったこと及び国内クルーズ船の寄港回数が増加したことにより、SNS等を活用した情報発信数は「目標値を下回る」となった。方向性を判断した理由は、状況の回復を見据え、港のにぎわいを創出するべくクルーズ船誘致を進める必要があるため。なお、成果については、引き続き目標達成を目指すことから「維持」、コストも「維持」とした。				
			10件	15件	20件	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。									
			18,732千円	17,957千円	17,605千円										
施04事12	クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応(誘致推進課)	受入対応に起因する事故件数【単年度管理型】	0件	0件	0件	0件	目標値どおり	継続	維持	拡大	本港マニュアルに基づき、引き続き感染症対策の費用が必要となることに加え、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響に伴う外航クルーズ船の2号岸壁着岸や国内クルーズ船の金城ふ頭着岸の増加に備え、安全対策に係る費用が新たに必要となるためコストは「拡大」とし、より安全で円滑な受入れに努めていく。なお、成果は事故を0件とすることから「維持」とする。				
			0件	0件	0件	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、適切な成果の状況を維持する。									
			26,951千円	19,545千円	20,021千円										

施策コスト(合計)	2,246,654千円	2,356,830千円	2,494,997千円
-----------	-------------	-------------	-------------

3. CHECK (成果目標の状況・3年度の取組内容など)

施策 成果目標	実績等		元年度	2年度	3年度	目標値 [5年度]	成果目標の達成度に対する評価(外部要因等があればその旨を踏まえて記載)
	目標値	人	754万	756万	768万	800万	
交流施設の来場者数	実績	人	714万	320万	452万	60注	・令和3年度の交流施設の来場者数は、令和2年度の実績を上回ったが、令和3年度の目標値と比べると大きく下回った。これは、感染症に関する自粛要請の緩和などにより来場者数の一時的な増加があったものの、昨年度より続く施設の営業時間短縮や人々の外出自粛による影響が要因と考えられる。 ・成果目標、構成事務事業目標値については、感染症の消長の予測が困難であることから、据え置くこととする。
	(仮目標値)*	隻	45	50	55		
クルーズ船入港隻数	実績	隻	26	7	16	60注	・令和3年度のクルーズ船入港隻数は、感染症の影響により、国内クルーズ船16隻の受入れにとどまったことから目標値を下回った。今後もクルーズ船事業者の動向を注視しながら、見直しも含めて検討する。
	(仮目標値)*	隻	45	50	55		

注:クルーズ船入港隻数は、4年度を目標年度としている。

* 仮目標値 = 初期値(30年) + $\frac{\text{目標値(4年)} - \text{初期値(30年)}}{4\text{年間}}$ × 30年からの経過年数

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	
適正 見直しが必要	<p>・「ガーデンふ頭再開発の推進」について、感染症の影響による生活様式などが変化しているなかでも再開発を着実に進めていけるよう事業化の見直しを踏まえて評価条件が整った成果目標について見直しも含めて検討する。</p> <p>・「名古屋港のPR」について、令和3年度に新たにTwitterを導入したことから、当該年度の実績を踏まえ、成果目標名及び令和4年度以降の目標値変更を検討する。</p>

4. ACTION (課題・4年度以降の取組方針)

(1) 重点施策3

3年度に取り組んだ内容
<p>重施03事01 ガーデンふ頭再開発の推進</p> <p>社会経済情勢の動向等を注視し、民間事業者と意見交換を継続しながら事業化の見直しを探索するとともに、開発エリアの確保に向けて、港湾業務機能の移転のための関係者との調整をいっく中で、建物1棟について移転補償契約を交わし撤去が完了するなど、再開発の基本的な内容の具体化に取り組んだ。</p>
<p>重施03事02 中川運河にぎわいゾーンの魅力向上</p> <p>老朽化した護岸の改良・補修を実施するとともに、プロムナード整備に向け関係者との調整を行った。また、東支線では、運河を眺められる視点場の整備を実施するとともに、底層改善に向け覆砂の工事に着手した。</p>

課題	4年度以降の取組方針
再開発の推進に際しては、感染症の影響を注視していく必要がある。また、再開発を着実に進めていけるよう検討していく必要がある。併せて、開発エリアの確保に向けて関係者との調整を進めていく必要がある。	引き続き、民間事業者と意見交換を継続しつつ、社会経済情勢の動向や感染症の影響により生活様式が大きく変化していることから、様々な観点から再開発の実現に向けた方向性を検討していくとともに、開発エリアの確保に向けた関係者との調整を進めるなど、再開発の実現に向け取り組む。
水環境の改善や護岸の老朽化対策等を進めるとともに、回遊性向上に向けたプロムナード整備については、関係者との調整を踏まえ、促進していく必要がある。	引き続き、覆砂、老朽化した護岸の改良・補修、視点場の整備を進めるとともに、プロムナード整備に着手する。

(2) 施策4

3年度に取り組んだ内容
<p>施04事01 名古屋港のPR</p> <p>帆船(2隻)及び汽船(3隻)の誘致、「海の日名古屋みなと祭」開催に代わる「サプライズ花火」及び「冬のイベント」開催への協力、印刷物「Port of Nagoya」「要覧」「ようこそなごやこうへ」「わたしたちの名古屋港」の発行を行うとともに、広報番組「What's 名古屋港」(3回)・広報紙「広報なごや港」(4回)・新聞広告(14回)の製作、ホームページ及びSNS (Facebook、Instagram、Twitter、YouTube)の運営・Instagramフォトコンテストの開催、「みなど体験ツアー」(4回)・PRイベントの実施や民間活力による花火イベントの調整協力、設立70周年事業(式典、年史、帆船2隻同時寄港)を行った。帆船・汽船の一般公開及び「海の日名古屋みなと祭」開催への協力は、感染症の影響により実施できなかった。</p>
<p>施04事02 名古屋港水族館の振興</p> <p>令和2年度に引き続き、換気の強化や繁忙期の事前予約制の実施など感染症拡大防止対策を実施した。感染症の影響により利用料金収入が減少し、施設の維持に必要な経費が不足したため、指定管理料を支出したが、令和2年度よりも指定管理料は減少した。特別展について、昨年度は開催できなかったが、今年は、展示を分散し密集を防ぎながら海洋環境問題をテーマとした参加型の特別展「豊かな海をいつまでも～旅する水とめぐる海洋ゴミのいま～」を開催した。クラウドファンディングの実施や市内観光施設、地元企業等と連携するなど、水族館のPRに取り組んだ。名古屋港水族館中長期計画基礎調査を委託し、調査結果を取りまとめた。優先順位を定め施設を補修するとともに、施設の老朽化による今後の補修のあり方について、愛知県、名古屋市と連携し検討を開始した。</p>
<p>施04事03 金城ふ頭における円滑な交流拠点開発の推進</p> <p>国際展示場新第1展示館やコンベンション施設及び歩行者デッキの工事について、港湾関係者へ工事の概要説明や月間工程を送付するとともに、大規模イベント時における交通対策等について、名古屋市と連携し、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行った。</p>
<p>施04事04 魅力ある港湾景観の形成</p> <p>名古屋港カラー計画について10件の審査を行い、景観アドバイザー制度について2件の相談を受けた。名港トリトンのライトアップの今後のあり方を検討した。</p>
<p>施04事05 名古屋港ポートビルの管理・運営</p> <p>感染症拡大防止対策を実施した上で、海洋博物館においては学芸員によるガイドツアーの実施や、企画展「名古屋海洋博物館のお宝展～今年は南極特集～」、「ボトルシップ展」、「ペーパークラフト教室」を開催する等、海事に関する企画・展示を行い、海事に関する知識の普及に努めた。また、環境問題についての特別展を名古屋港水族館と同時開催し、ガーデンふ頭内の回遊性の向上に資する取組を行った。加えて、名古屋港ポートビル及び南極観測船ふじの魅力をより広く発信するため、名古屋港水族館のfacebookとの連携等SNSを利用した情報発信に努めた。感染症の影響により、利用料金収入の回復は途上であり、施設の維持に必要な経費が不足したため、指定管理料を支出した。</p>
<p>施04事06 名古屋港湾会館の管理・運営</p> <p>感染症の拡大防止対策を実施した上で利用促進に努め、2,016件の利用があった。感染拡大による、緊急事態措置、まん延防止等重点措置等の期間において、感染症の拡大防止を理由とするキャンセルに伴う減収分等について、指定管理料を増額した。</p>
<p>施04事07 臨港緑地の管理・運営</p> <p>屋内施設に消毒用アルコールを設置する等の感染症防止対策を行うとともに、臨港緑地の提供及び施設の良好な管理を行いながら、安全に利用できるように努めた。</p>
<p>施04事08 中川運河緑地(堀止地区)整備事業</p> <p>水辺一体の緑地整備として、植栽、照明等を行った。</p>
<p>施04事09 中川運河水質改善事業</p> <p>松重ポンプ所の改修(ポンプ棟基礎工事)に着手した。</p>
<p>施04事10 海上交通ネットワークの形成</p> <p>海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型桟橋の整備に係る関係者との調整を行った。</p>
<p>施04事11 クルーズ船誘致の推進</p> <p>フェイスブック等のSNSを活用し、クルーズ船入出港について発信した。また、ホームページにてクルーズ船の入港予定のほか、「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル(以下「本港マニュアル」という。)」の改訂情報並びに国、関係団体及び船社の安全・安心の取組の情報発信を行うとともに、船社に対しては、この地域の観光施設等で実施されている感染症対策について情報発信を行った。</p>
<p>施04事12 クルーズ船乗客の安全で円滑な受入対応</p> <p>国内クルーズ船については、本港マニュアルに基づき、発熱等の症状がある乗客を隔離するためのテントの設置及び乗船時に岸壁への一般見学者の立入制限など感染症対策を徹底し、船社・関係機関と連携しながら安全・安心なクルーズ船の受入れを行った。</p>

課題	4年度以降の取組方針
利用者にとって、わかりやすく伝わりやすい情報発信とするための工夫や方法、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要である。また、感染症の状況を踏まえ、イベント開催の可否を判断するとともに、イベント開催時における感染症の感染防止対策の実施が必要である。	情報発信の強化や、更なる効果的なPRを行っていくため、多様なニーズの把握に努めるとともに、それらに対する的確な情報発信の工夫を図っていく。また、感染症の状況に応じ感染防止対策を適切に実施し、にぎわい創出に取り組んでいく。
来館者が安全・安心に観覧できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続していく必要がある。コロナ禍においての入館者数の回復策や新たな財源確保の方策を検討していくとともに、水族館を広く一般の利用者に対して継続してPRしていく必要がある。	サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、感染症を原因とする収支不足については指定管理料を支出する。入館者数増加、収入増加の方策を財団と連携して取り組む。また、開館30周年記念事業や企業と連携したイベントの開催により、今後の施策成果目標(交流施設の来場者数)達成に向けて集客に努めていく。事業運営計画(中長期計画)策定、施設の老朽化への対応について、愛知県、名古屋市と連携し、全庁的に取り組んでいく。
交流拠点開発は、物流機能への影響がないよう進めていく必要がある。	物流機能と共存した交流拠点開発について、名古屋市や関係部署と連携し、国際展示場関連の工事や新第1展示館開業後の大規模イベント時等の交通対策について、引き続き、港湾関係者の意見を踏まえながら調整を行っていく。
引き続き、新たな建築物等について、カラー計画との整合が図られるよう事業者の説明していく必要がある。また、カラー計画マニュアルや景観基本計画については、事業者の協力が得られるよう、成果や課題を分析するなど、計画内容の検証をする必要がある。国の登録有形文化財である歴史資源の維持管理方法について、関係機関と調整を図りつつ検討する必要がある。また、名港トリトンのライトアップの今後のあり方について、関係者と検討していく必要がある。	事業者が新築・改築の手続きを行う際、カラー計画を認識する機会を増やすよう、検討・調整を進め、カラー計画マニュアルや景観基本計画については、これまでの成果や課題を分析するなど、計画内容の検証を行っていく。また、国の登録有形文化財である歴史資源の維持管理方法について、関係機関と調整を図りながら維持管理マニュアルの作成作業を進めていく。あわせて、名港トリトンのライトアップについて、会議を設置するなど、関係者と今後のあり方や整備に関して、引き続き協議・検討を重ねていく。
感染症拡大前の水準から減少した入館者数を回復するため、来館者が安全・安心に観覧できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続し、海事に関する知識の普及に取り組む必要がある。	サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、感染症を原因とする収支不足については指定管理料を支出する。また、引き続き、webを活用し、施設の魅力を広く発信するとともに、経費の削減についても取り組む。
安全・安心に利用できるよう、引き続き、感染症の拡大防止対策を継続していく必要がある。また、経費削減に取り組むとともに、コロナ禍においての利用率の向上に向けた周知や、営業等に取り組む必要がある。	サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、感染症の拡大防止を理由とする減収分等については、指定管理料を増額する。また、施設の良好な維持管理、高質な利用者サービスの提供に努める。
感染症の拡大防止対策を継続し、効率的な施設の維持管理及び安心して利用してもらえるように指定管理者に指導・助言していく必要がある。	サービス水準の維持・向上を図るため、引き続き、モニタリング等を実施し管理運営状況を把握するとともに、施設の良好な維持管理と高質な利用者サービスの提供及び感染症の拡大防止対策に努めるとともに、イベントを実施することで多くの方に利用してもらえるよう、指定管理者に対し指導・助言を行う。
名古屋市関連事業と調整を図りながら一体的な緑地整備を進める必要がある。	堀止周辺の整備を行っている名古屋市関連事業と連携して、引き続き、親水緑地の整備を進めていく。
中川運河水質改善施策を推進するためには、関係者とのさまざまな調整が必要である。また、本線や支線について効果を確認していく必要がある。	地元住民に説明を行いながら、着実に事業を進めていく。また、松重ポンプ所改修後は放水量増加による効果を確認していく。
海上交通ネットワークの形成に際しては、利便性を向上していく必要がある。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と連携・調整していく必要がある。	海上交通ネットワークの形成を進めるため、利便性の向上に向け、金城ふ頭小型桟橋工事を実施する。また、水上交通の誘導を進める名古屋市と引き続き、連携・調整していく。
外航クルーズ船の運航再開にあたり、国等のガイドラインに基づき、本組合の受入マニュアルを策定するとともに、引き続き、本組合、国、関係団体及び船社の感染症対策など安全・安心の取組を広く発信する必要がある。	クルーズ船について、外航クルーズ船の運航再開にあたり国等のガイドラインに基づき本組合の受入マニュアルを策定するとともに、引き続き、本組合、国、関係団体及び船社の感染症対策など安全・安心の取組を広く県民・市民に対し情報発信していく。また、船社に対しては引き続きこの地域の観光施設等で実施されている感染症対策について情報発信を行い、名古屋港へのクルーズ船誘致を行うとともに、感染症の状況を注視しつつクルーズ需要喚起に向けた情報発信にも取り組んでいく。
外航クルーズ船は、税関・出入国管理・検疫が必要となり、感染症対策として対人距離確保のため従来よりも広いスペースが必要となるため、運航再開にあたっては国等のガイドラインに基づく適切な受入対応が求められる。さらに、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響に伴い2号岸壁や金城ふ頭での受入対応が求められる。	国内クルーズ船の本港マニュアルに基づく受入対応の継続に加え、外航クルーズ船の運航再開に備え、船社・関係機関と連携しながら適切な対応を行っていく。さらに、ガーデンふ頭3号岸壁改良工事の影響に伴う受入について、2号岸壁や金城ふ頭における安全で円滑な対応を行う。